

大気浮遊じんの放射能濃度測定結果

ちりやほこりに付着した放射性物質の飛散状況を調べるため、市内10地点で収集した大気1m³あたりの放射性物質の濃度を測定しました。

測定地点		放射能濃度 (mBq/m ³)			
		5/10～5/17	5/17～5/24	5/24～5/31	
小高区	川房公会堂 (川房)	セシウム134	0.018	0.042	0.030
		セシウム137	0.110	0.290	0.220
	金房小学校 (飯崎)	セシウム134	不検出	0.019	不検出
		セシウム137	0.064	0.130	0.110
	塚原公会堂 (塚原)	セシウム134	不検出	0.015	0.140
		セシウム137	0.060	0.096	1.000
原町区	横川ダム (馬場)	セシウム134	不検出	0.036	不検出
		セシウム137	0.093	0.280	0.130
	原町保健センター (小川町)	セシウム134	不検出	-	不検出
		セシウム137	0.047	-	0.074
	高平生涯学習センター (下高平)	セシウム134	不検出	不検出	不検出
		セシウム137	0.037	0.080	0.064
	市立総合病院 (高見町)	セシウム134	0.060	0.018	0.013
		セシウム137	0.480	0.130	0.088
	大原公会堂 (大原)	セシウム134	不検出	0.028	不検出
		セシウム137	0.098	0.190	0.120

測定地点		放射能濃度 (mBq/m ³)			
		5/10～5/17	5/17～5/24	5/24～5/31	
鹿島区	鹿島区役所 (西町)	セシウム134	不検出	0.018	不検出
		セシウム137	0.034	0.120	0.072
	鹿島区3-3消防屯所 (南海老)	セシウム134	不検出	不検出	不検出
		セシウム137	不検出	0.054	0.036

検出限界値はおおむね0.02～0.03mBq/m³の範囲にありますが、測定サンプル毎に変動します。そのため、データの記載がない日は、放射能濃度が検出限界値未満の値であり「放射能不検出」と判定されます。

5月17日から5月24日にかけて、原町保健センターに設置している計測機器に故障が発生し、この期間を欠測としております。

渡邊正己京都大学名誉教授
(市放射線健康対策委員会委員長)による解説

平成29年5月10日～5月31日間の南相馬地区の大気浮遊じん中の放射能濃度は、セシウム137濃度が平均0.16 mBq/m³、セシウム134が平均0.015 mBq/m³と引き続き低い値でした。仮にこの濃度の空気を一年中吸い続け、含まれている全ての放射能が体内に残ったとすると、その総量は、1年間で1Bq程度にしかありません。人間の体には、元々100 Bq/Kg程度の放射能が存在しています。これからでも年間1Bqという値は、非常に小さな値であることがわかります。よって現在の放射性物質による健康への影響についての過剰な心配は必要ありません。